

2030



VISION

住友電工グループ

2030

ビジョン

グリーンな地球と安心・快適な暮らし

— その実現へ技術で挑戦し続けます —

Connect with Innovation

Glorious Excellent Company

様々な社会変革が起こりつつある中でグループの目指す姿を示すため、
2030年を節目とする長期ビジョンを策定いたしました。

また、不確実・非連続な経営環境に対し、2023年度から3カ年ごとに
中期計画として具体的な事業計画を策定し、経営の舵を取ってまいります。

ステークホルダーの皆様のご理解のもと、グループが一体となり企業価値向上に取り組み、
「Glorious Excellent Company」の企業像実現を目指してまいります。

2022
現在

フォーカスティング

不確実・非連続な状況に的確・迅速・柔軟に対応

第一次中計
3カ年

第二次中計
3カ年

.....

2030

目指す姿

ありたい将来像

Glorious Excellent Company

“Glorious”は「住友事業精神」と
「住友電工グループ経営理念」と
いう精神的基盤を具現化したある
べき姿、“Excellent”は具体的・
定量的な事業目標達成の意
を込めています

バックキャストिंग

1

第1章
経営方針

- 基本思想(フィロソフィ) ▶P04
- グローバルプレゼンス ▶P06
- サステナビリティ ▶P08
- トップテクノロジー ▶P05
- ダイバーシティ&インクルージョン ▶P07
- 存在価値(パーパス) ▶P09

2

第2章
社会像と
事業領域

- 2030年の社会像と実現したいこと ▶P11
- 事業領域—注力分野 ▶P12

3

第3章
事業の
方向性

- エネルギー分野 ▶P14
- 情報通信分野 ▶P18
- モビリティ分野 ▶P22
- 注力3分野に貢献する高機能製品 ▶P26
- グリーン化への取組み ▶P27

4

第4章
基盤と
目標

- ビジョン実現への経営基盤 ▶P29
- 3つの資本 ▶P30
- 3つの推進力 ▶P32
- 目標 ▶P34

1



経営方針

- 基本思想（フィロソフィ）
- トップテクノロジー
- グローバルプレゼンス
- ダイバーシティ&インクルージョン
- サステナビリティ
- 存在価値（パーパス）

基本思想 (フィロソフィ)

連綿と引き継がれる

「住友事業精神」とグループの

「経営理念」を堅持し、

「事業を通じて公益に資する」という

経営哲学のもと、常に公益を重視し、

ステークホルダーの皆様との

共栄を図ってまいります。

住友事業精神

萬事入精

まず一人の人間として、何事に対しても誠心誠意を尽くす人であれ

信用確実

何よりも信用を重んじること、すなわち、常に相手の信頼に応えること

不趨浮利

常に公共の利益との一致を求め、浮利を追い、軽率、粗略に行動してはならない

住友で脈々と受け継がれている考え方

「技術の重視」、「人材の尊重」、「企画の遠大性」、「自利利他・公私一如」

住友電工グループ 経営理念

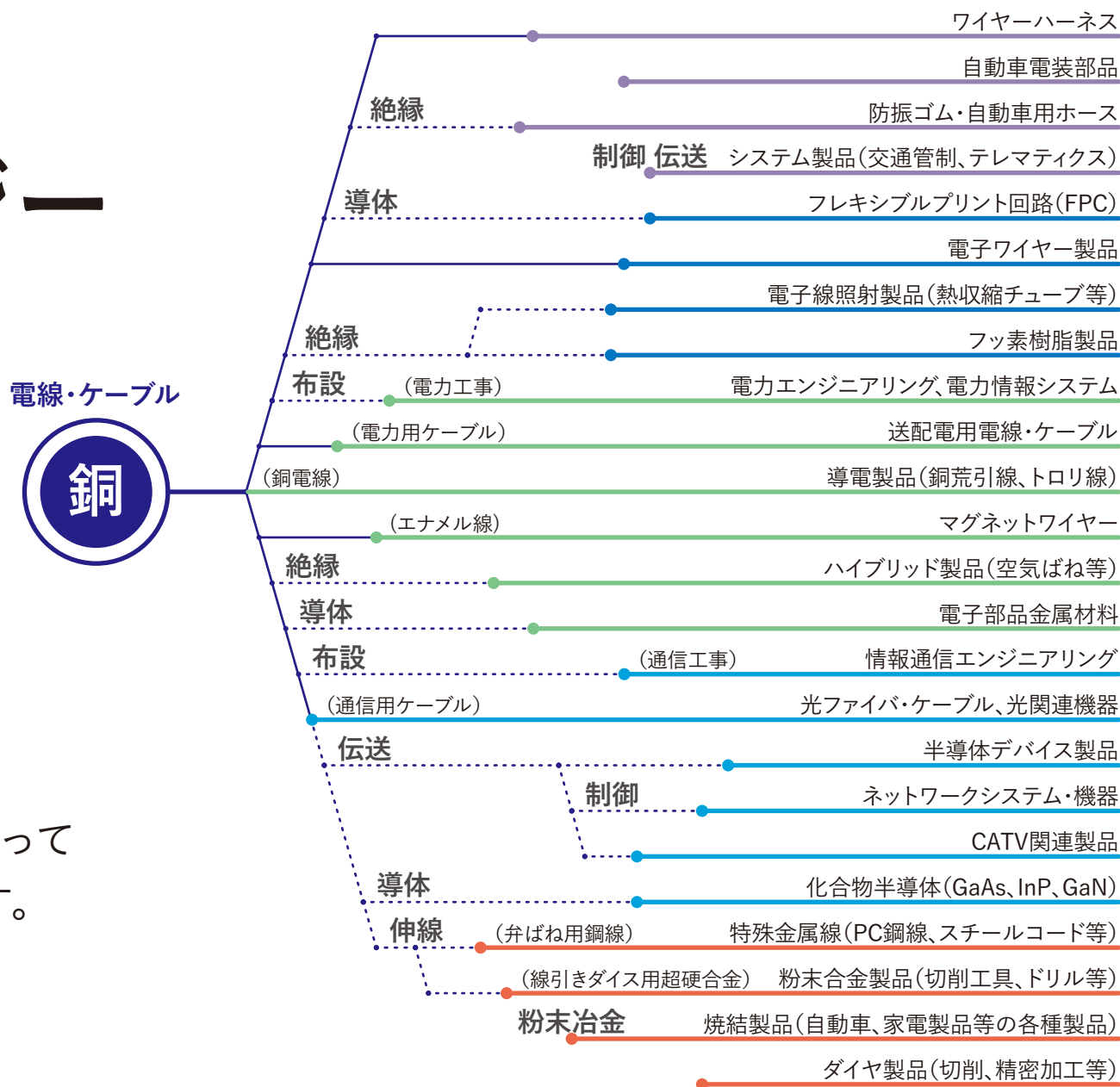
住友電工グループは

- 顧客の要望に応え、最も優れた製品・サービスを提供します
- 技術を創造し、変革を生み出し、絶えざる成長に努めます
- 社会的責任を自覚し、よりよい社会、環境づくりに貢献します
- 高い企業倫理を保持し、常に信頼される会社を目指します
- 自己実現を可能にする、生き生きとした企業風土を育みます

トップテクノロジー

当社グループは、電線・ケーブル事業を礎に、
 素材やそれらを加工する様々な技術を
 連関する技術系譜として
 大樹のごとく進化させてきました。

これからも
 「トップテクノロジー」を追求し
 つなぐ・ささえる技術を進化させ
グループの総合力とイノベーションによって
 グローバルな貢献を果たしてまいります。



技術で新たな価値を創造

グローバル プレゼンス

トップテクノロジーによる
新たな価値の創造を通じて、
グローバル市場の多様なニーズに
応えてまいりました。

これからも
グループを挙げた
グローバルな事業活動の展開によって、
世界のインフラ・産業の発展を支えて
まいります。



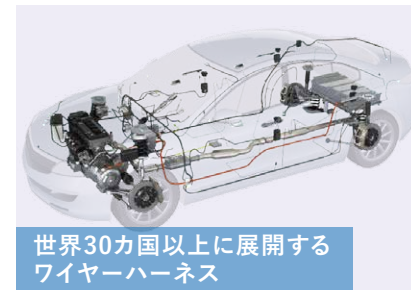
イギリス-ベルギー間海底ケーブル



シンガポール 光ファイバ敷設



カンボジア・プノンペン
交通管制システム



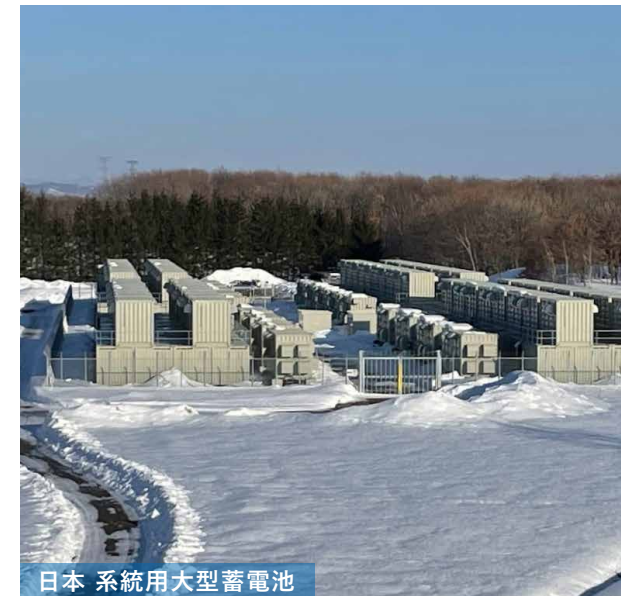
世界30カ国以上に展開する
ワイヤーハーネス



ベトナム 橋梁用鋼材



インド 鉄道用トロリ線



日本 系統用大型蓄電池

ダイバーシティ & インクルージョン

グローバルな事業活動は、世界各国各地域の
400社を超える当社グループ約28万人の従業員によって
支えられています。(2022年3月末現在)

これからも
グループの多様な人材の
個々の特性や能力を最大限に活かして
トップテクノロジーの創出とともに、
組織としての活力と競争力の強化
に取り組みます。



サステナビリティ

感染症や自然災害、ブロック化など国際情勢の変貌等、当社グループのグローバルな事業活動とサプライチェーンに重大な影響をもたらすリスクが顕在化しています。

このようなリスクにも的確に対応しながら地球環境や人権の尊重、従業員への配慮、公正・公平な取引などを通じてこれからも永続的な企業価値の向上に取り組めます。

サステナビリティ経営に関する基本方針 (2022年4月制定)

基本思想 (フィロソフィ)

サステナビリティを巡る課題への取組み

(例)

取引先との
公正・公平な取引

自然災害など
危機管理

気候変動など
地球環境問題への
配慮

人権の尊重

従業員の健康・
労働環境への配慮/
公正・適切な処遇

ゴーイングコンサーンとして永続的な企業価値の向上のために必要不可欠

存在価値 (パーパス)

存在価値(パーパス)

「公益を重視し、ステークホルダーの皆様との共栄を図る」という基本思想のもと、

『 トップテクノロジーを追求し、つなぐ・ささえる技術を
イノベーションで進化させ、グループの総合力により、
より良い社会の実現に貢献していく 』

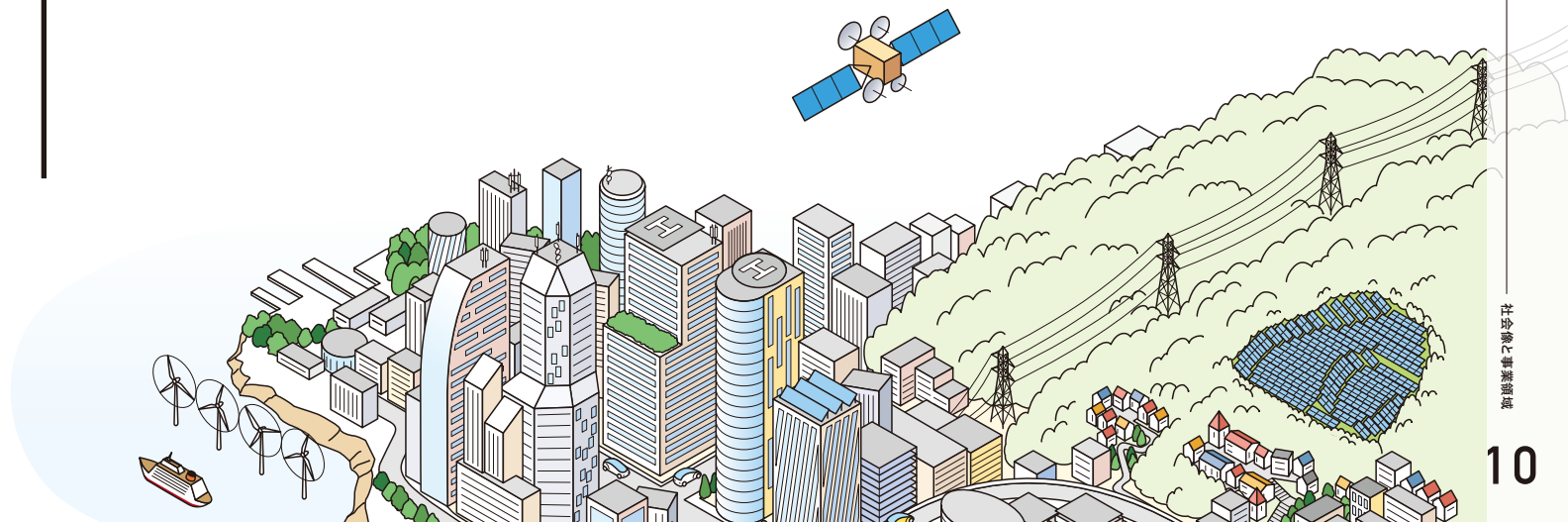
このような当社グループの存在価値(パーパス)をこれからも追求してまいります。

2



社会像と事業領域

- 2030年の社会像と実現したいこと
- 事業領域－注力分野



2030年の社会像と 実現したいこと

2030年に向けて持続可能な地球環境の実現がより重要になります。当社グループは「安心」「快適」な社会への貢献に加え、「グリーン」な環境社会の実現に、グループの総力を挙げて取り組んでまいります。

創業からの取組み

安心

「安心して暮らせる社会」のために、インフラ関連や産業を支える様々な製品の提供に取り組んでいます

耐久性 高強度

快適

「快適で住みやすい社会」のために、高機能で高性能な製品のグローバルな供給に取り組んでいます

高速 大容量

さらに重視していきたいこと

グリーン

「グリーンな環境社会」に向け、脱炭素をはじめとする関連事業に総力を挙げて取り組み、当社らしく貢献してまいります

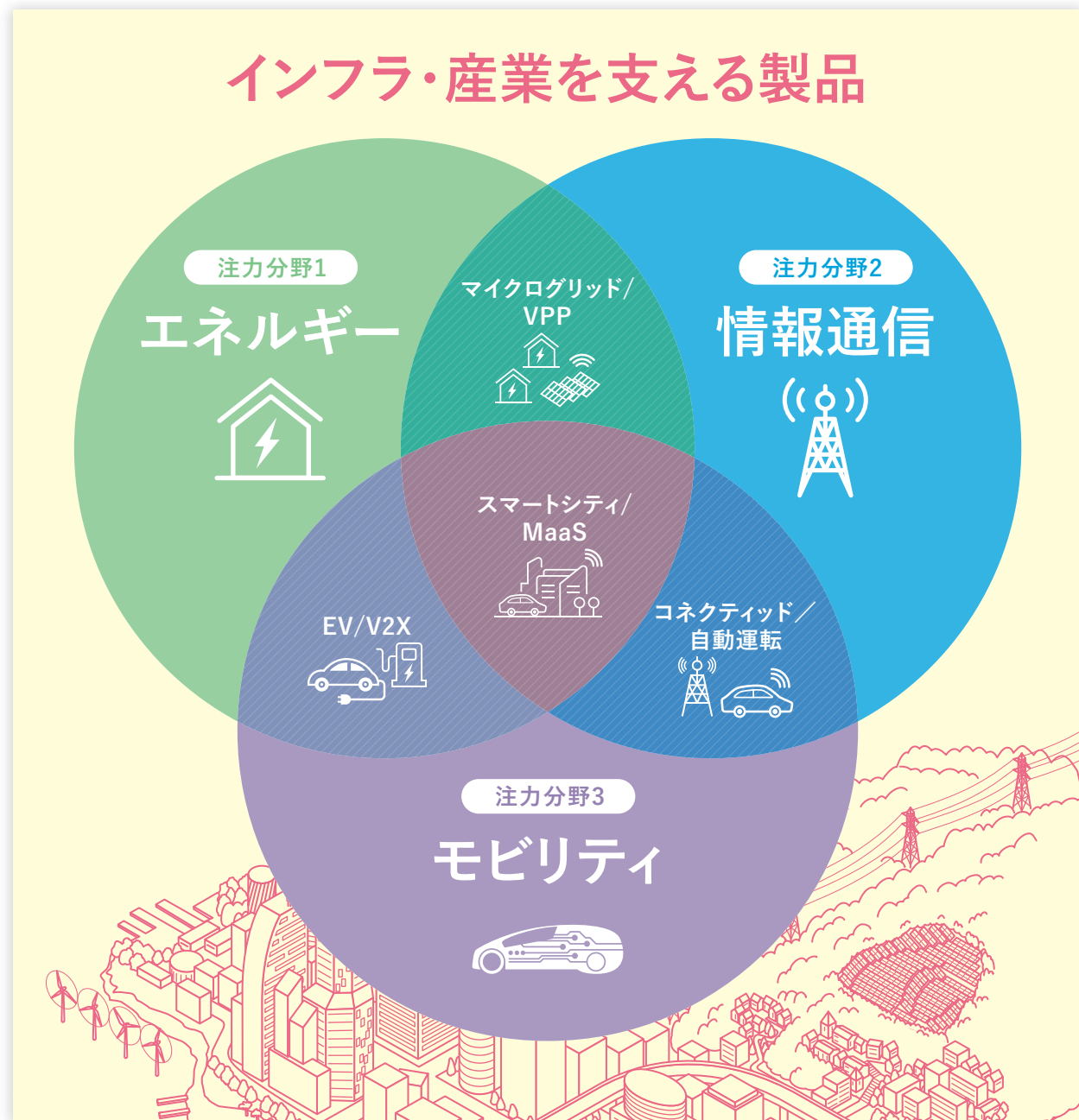
高効率 低損失

— 安心・快適な社会をいつまでも持続させるために、グリーンの実現に注力します

事業領域－注力分野

目指す社会像の実現に向けて、これからも幅広く「インフラや産業を支える製品・サービス」を提供してまいります。

また、特に「エネルギー」「情報通信」「モビリティ」を3つの注力分野と位置づけ、いずれにも事業を展開し、技術知見がある当社グループは、それらが融合する分野も含めて、GXやDX、CASEといった社会変革におけるニーズを捉えて、グループの総合力でもって、市場の期待に応えてまいります。



3



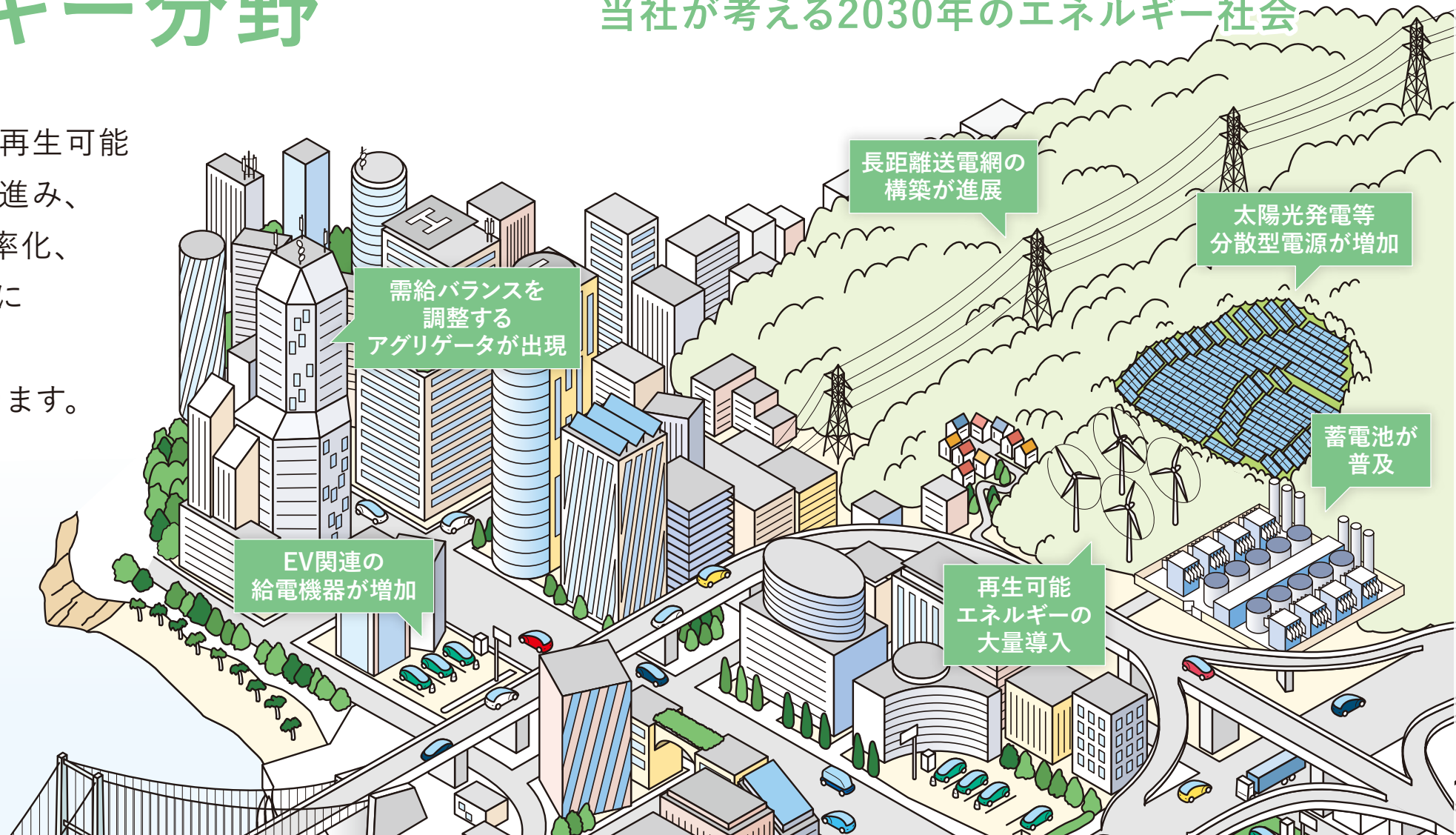
事業の方向性

- エネルギー分野
- 情報通信分野
- モビリティ分野
- 注力3分野に貢献する高機能製品
- グリーン化への取組み

エネルギー分野

脱炭素社会に向けて再生可能エネルギーの導入が進み、電力系統の強化・効率化、需給バランスの調整に新しい技術が求められるようになります。

当社が考える2030年のエネルギー社会



これからの事業環境

再生可能エネルギーの 大量導入

太陽光や風力発電を導入する取組みがさらに進展

● 発電と需要の遠隔化

→ 発電地と需要地が離れる自然エネルギーの導入により、効率的な長距離の直流送電網の構築が進展

● 不安定な出力

→ 出力が自然条件に左右されるため、蓄電池等による需給バランスの調整ニーズが拡大

分散型電源の大量導入

太陽光発電や蓄電池、EV等の分散型電源大量導入により、電気の流れの双方向化、複雑化が進展

● マイクログリッド

→ 太陽光発電、蓄電池、EV等の分散型電源の普及により本格化

● ネットゼロ工場

→ 製造現場における省エネや電源の脱炭素化が加速

● VPP※・デマンドレスポンス

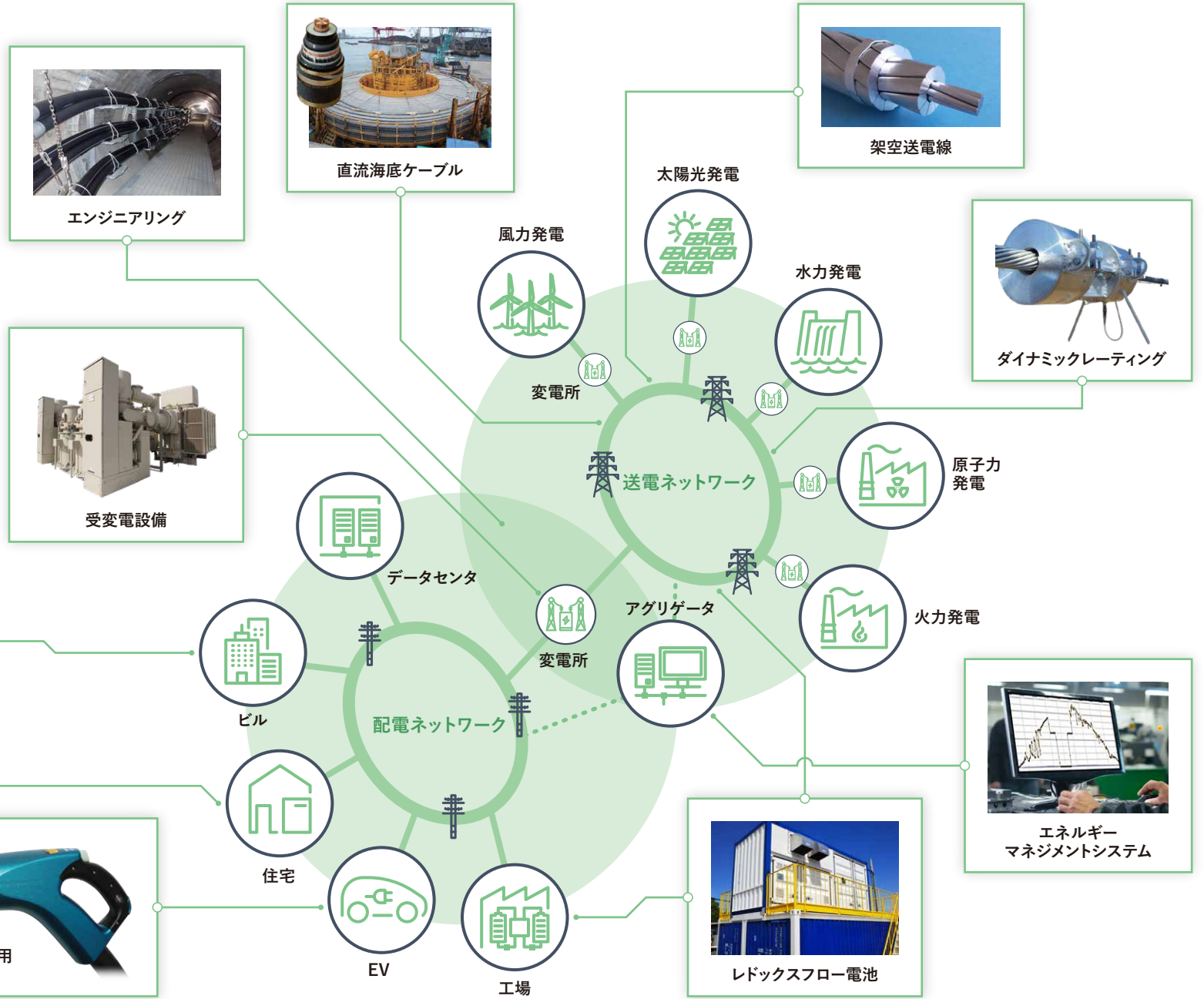
→ 分散型電源と需要を統合制御するアグリゲータが出現

※VPP:バーチャルパワープラント(Virtual Power Plant)

分散型電源の保有者もしくは第三者が、分散型電源を制御することで発電所と同等の機能を提供すること

事業領域と強み

ケーブルから受変電・蓄電設備やエンジニアリングまで、グループの幅広い製品・サービスで次世代エネルギーインフラの構築に貢献します。



2030年への挑戦

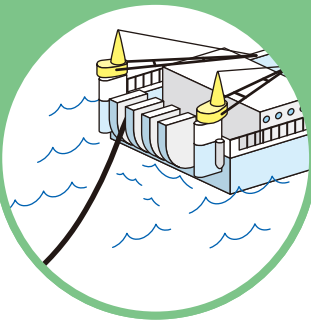
電力ケーブルの技術をさらに磨き、グローバルな系統強化に挑戦するとともに、需要家側の多様なニーズへのソリューション提供に挑戦します。

欧州連系線

● ~2019年建設
● 計画中



豊富な
エンジニアリング実績



大容量・低損失な送電系統

電力ケーブルの技術力を活かし、広域融通や効率的な直流送電を実現



独自の絶縁材料開発

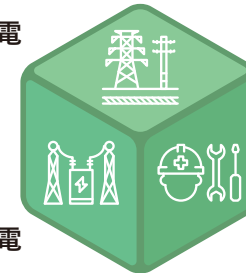
- 優れた直流絶縁性能
- 高い環境保全性
- 高い耐熱性
- 極性反転性能

大規模風力発電に必要な系統接続

グループ体でのソリューション提供により、再生可能エネルギーの大量導入に貢献

送変電パッケージ

送電



変電

エンジニアリング

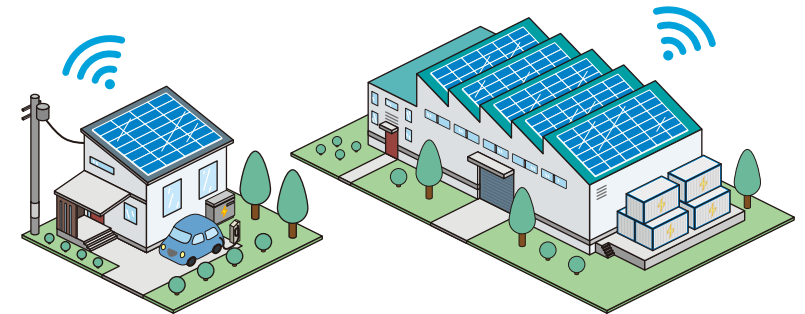
ダイナミックケーブル



電力需給の多様化

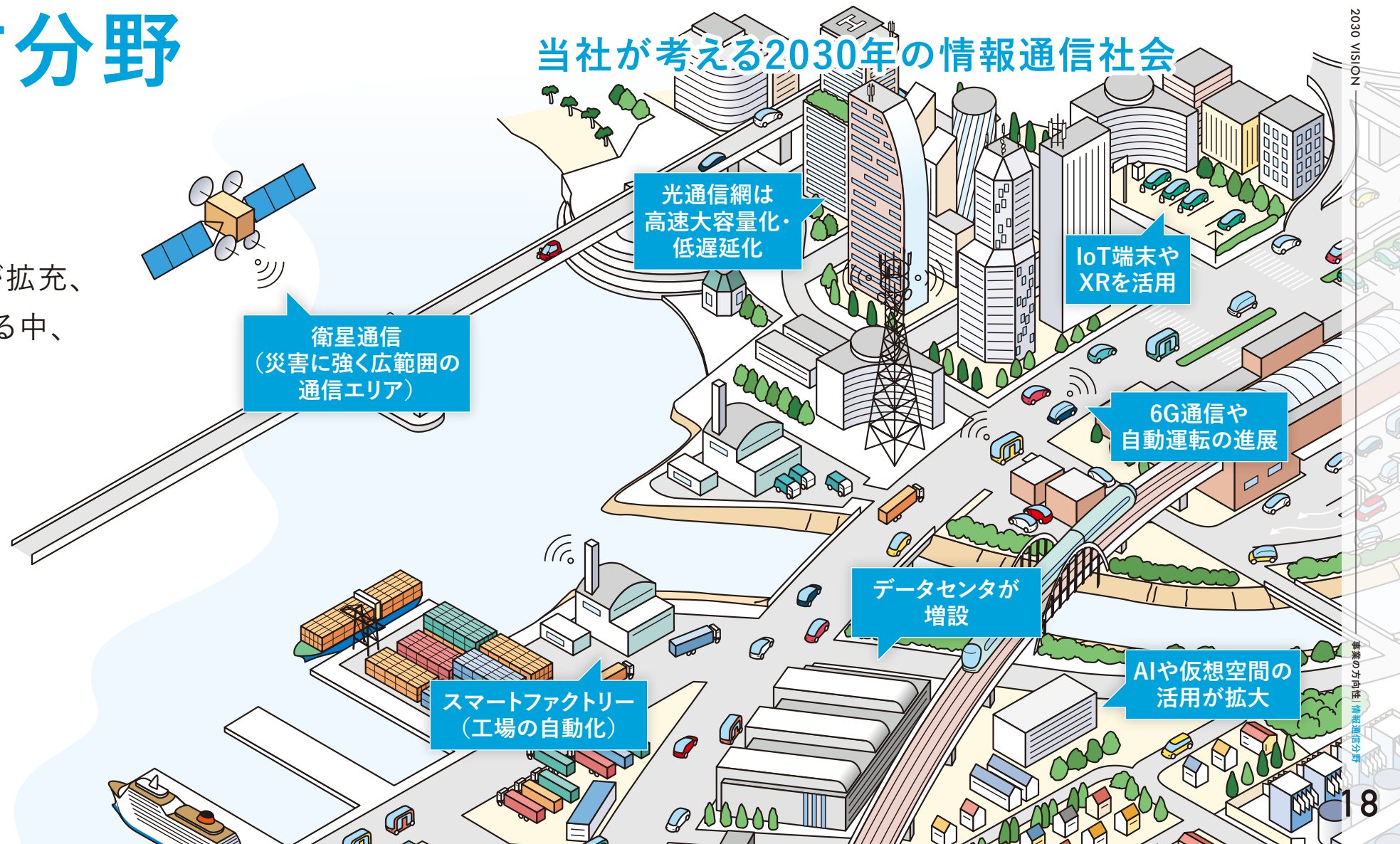
分散型電源の導入による電力需給の多様化に向けて、エネルギー・情報通信・モビリティで培った技術の総合力でソリューションを提供

- AI/IoTによる需給調整・電圧変動対策
- 素材～機器システムの総合力



情報通信分野

データ通信はさらに
高速・大容量化が進み、
無線・光ネットワーク網が拡充、
データセンターが増設される中、
低消費電力化の
ニーズが高まります。



当社が考える2030年の情報通信社会

衛星通信
(災害に強く広範囲の
通信エリア)

光通信網は
高速大容量化・
低遅延化

IoT端末や
XRを活用

6G通信や
自動運転の進展

データセンターが
増設

スマートファクトリー
(工場の自動化)

AIや仮想空間の
活用が拡大

これからの事業環境

安定した通信品質を保ち 高速・大容量化へ

- 5Gから6Gへ

→ 最大データ速度は現在の最大100倍に

- ネットワークのオール光化が進展

→ 低消費電力化に向けてデータセンタ/機器内の光化が進展

- データセンタの増設・小型化

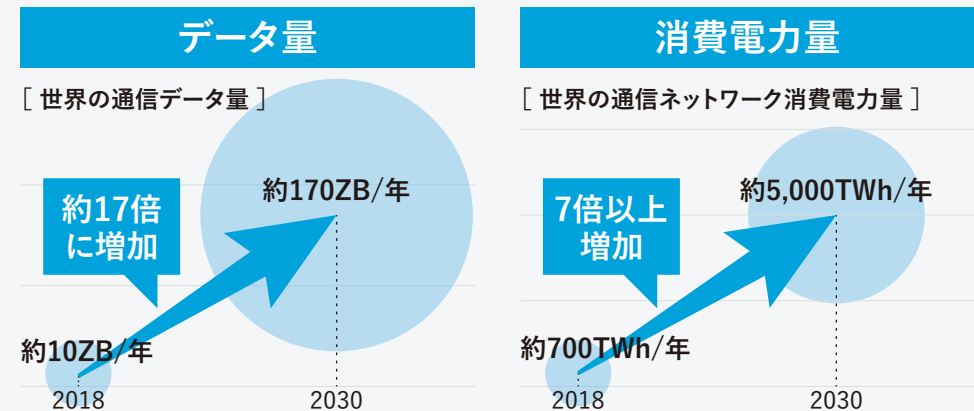
→ ネットワーク網の負荷軽減のため小型データセンタを増設

- 非陸上への拡張

→ 海底や人工衛星を活用、世界のネットワーク網が更に拡張

世界のデータ量増加に伴い 消費電力増加

通信データ量の増大に伴い消費電力が増大。
低消費電力化のニーズが高まる。



※データ量はデータセンタのIPトラフィックを使用

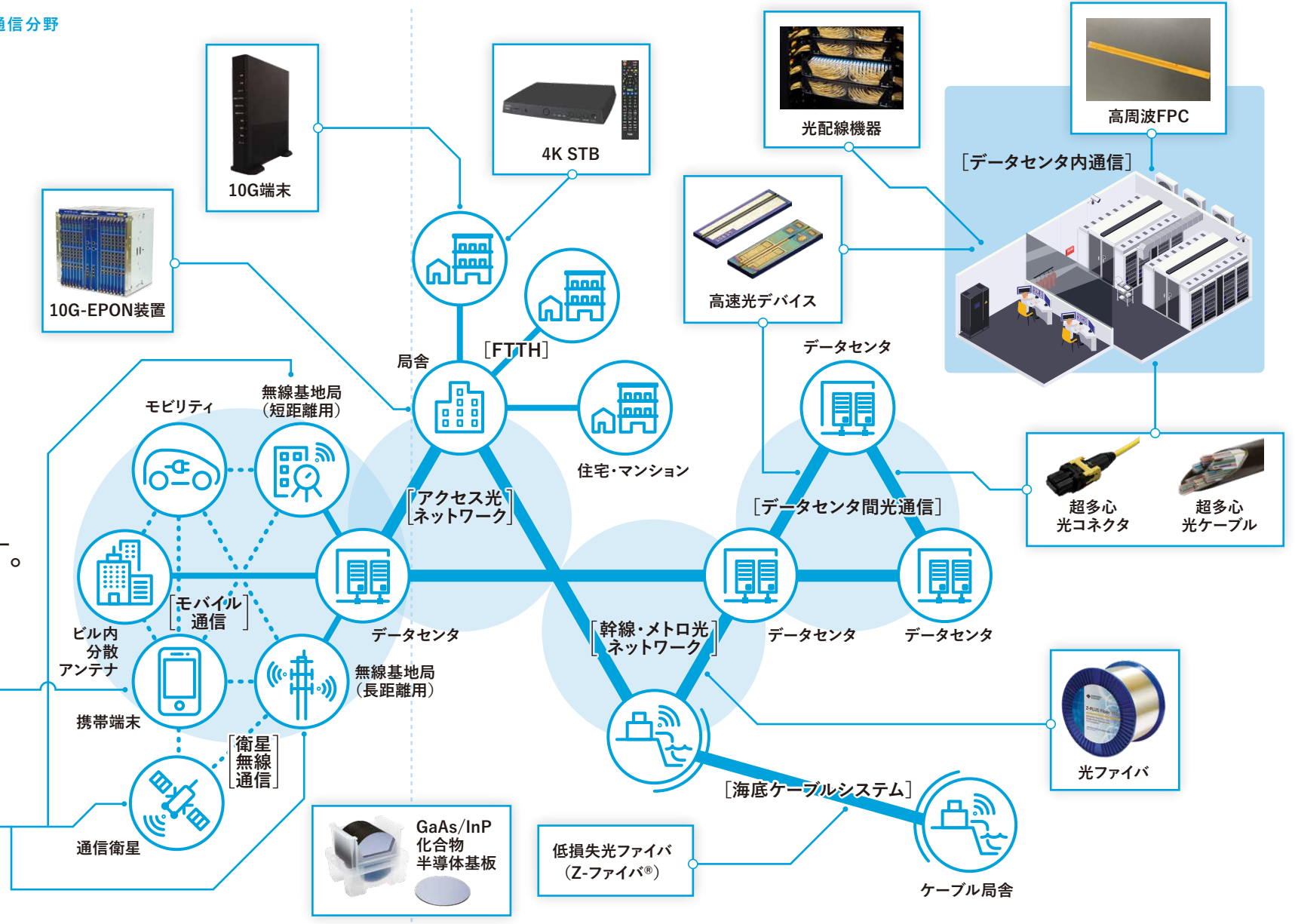
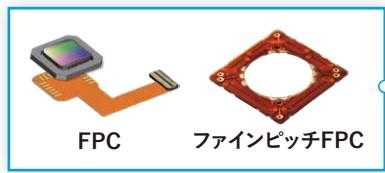
※技術革新がない場合

出典: 国立研究開発法人科学技術振興機構 低炭素社会戦略センター

「情報化社会の進展がエネルギー消費に与える影響vol.3(2021年2月), vol.4(2022年2月)」

事業領域と強み

高速・大容量化、
低消費電力化が求められる中、
材料技術をベースに
光ファイバ、デバイス、
機器へ多彩な製品を展開し、
グループの総合力で貢献します。



あらゆる場所をつなぐ無線通信技術

高速で社会をつなぐ光通信技術

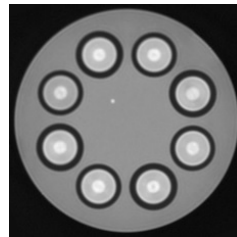
2030年への挑戦

大容量光通信、低消費電力、5G→6Gの進展に対して、幅広いソリューションを提供するオリジナリティのある材料、デバイス、機器の開発に挑戦します。

大容量光通信

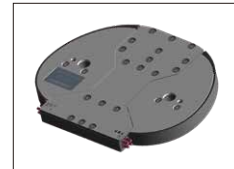
高速・大容量のマルチコア技術

▶ マルチコア光ファイバ



- 省スペース化
- 環境負荷低減
- 高度暗号伝送への応用

▶ 大陸間海底用ソリューション



高効率光アンプ



融着接続機

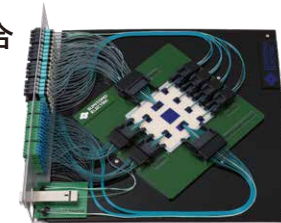
▶ データセンター用ソリューションへの展開

マルチコア光ファイバ収納型多心ケーブル、光コネクタ、光配線機器など

低消費電力化

データセンターと社会/家庭を結ぶオール光ネットワークの実現に向けた光と電気の融合技術

▶ 光电融合配線



- 電気配線→光配線で省電力化(20~30%削減)

CPO (Co-Packaged-Optics)※

※光学系と電子スイッチングを単一基板上にまとめる実装技術

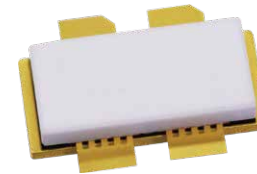
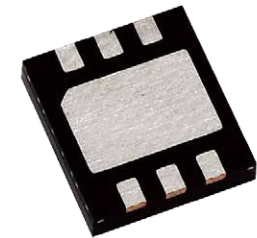
▶ 光电融合 デバイス集積化

高速高効率レーザーを小型シリコンフォトニクス光回路と集積、オール光ネットワーク接続装置(オーケストレータ連携ソフト搭載)

大容量無線通信: 5G→6G

低消費電力の大容量通信と広域カバレッジを可能にする技術

- ▶ 基地局用GaNデバイスの高集積化: 固定基地局/空中基地局/衛星通信に対応

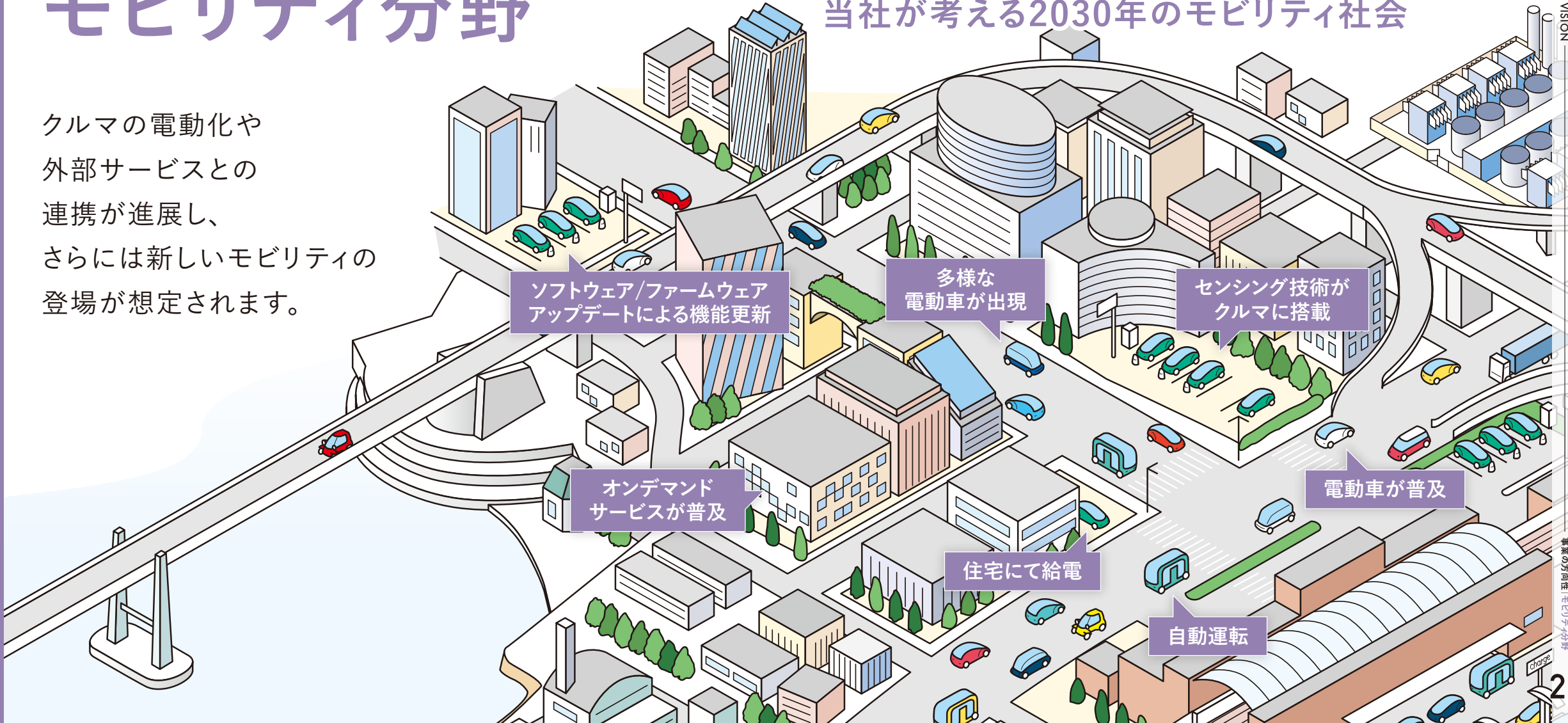


- ▶ 分散アンテナ用無線波光伝送モジュール

モビリティ分野

当社が考える2030年のモビリティ社会

クルマの電動化や外部サービスとの連携が進展し、さらには新しいモビリティの登場が想定されます。



これからの事業環境

エレクトロニクス化と ニューモビリティ出現

クルマの電動化が進展し、また、次世代モビリティシステムへの取組みが加速

● 電動化

→ 2030年にはICE車が減り、HEVやPHEVも含めた多様な電動車が新車販売台数の過半を占める

● 自動運転

→ 2030年代にLevel 3以上の自動運転車普及

● エマージングモビリティ

→ 超小型モビリティ、空飛ぶクルマなど多様化

外部サービス連携拡大 (コネクティッド)

MaaSに代表される移動サービスの拡大とクルマとサービスがつながるインフラ連携が加速

● エッジ

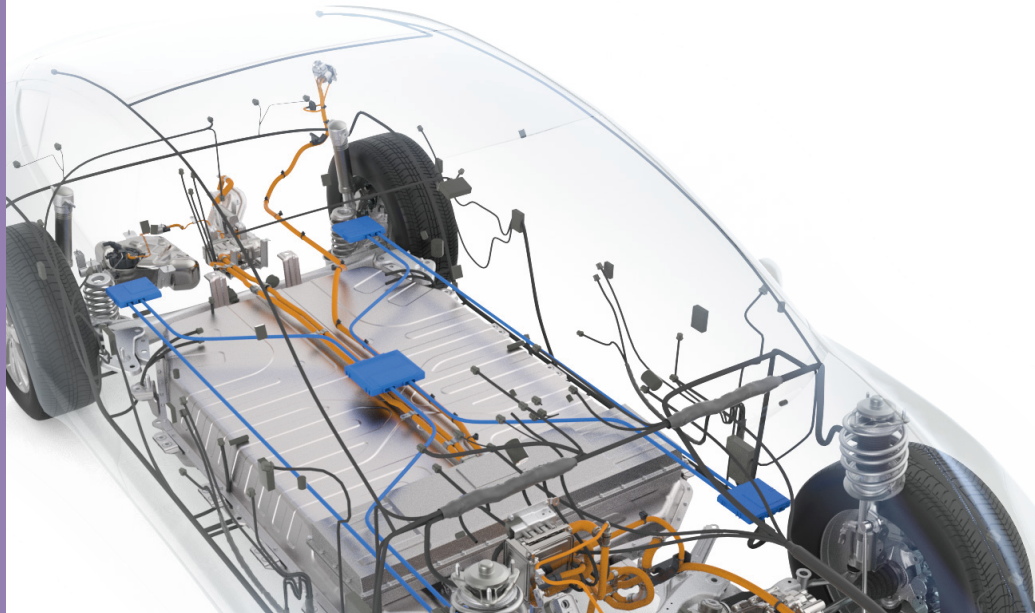
→ 安全、メンテナンス、エンターテインメントなど、エッジとしてのクルマの情報化が進展

● クラウド

→ 新しい都市インフラやオンデマンドサービスが拡大
エッジ - クラウド間の連携が重要化

事業領域と強み

ワイヤーハーネスをコアとして、
グローバルなモノづくり力と
高度な技術・技能人材により
新しい価値を提供します。



当社の技術革新

要素技術

材料技術・めっき技術・解析技術

設計技術

お客様のニーズを先取りした設計

製造技術

自動化・グリーン化の推進、グローバル標準化

ワイヤーハーネスの進化・モノづくりの革新

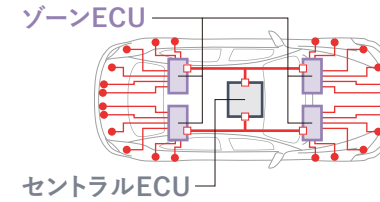
軽量・小型・
省スペース化

アルミハーネス



車内ネットワークの
高度化

ゾーンECU、拡張ECU



モジュール化

ECU/配線モジュール化



「パワートレイン・装備の多様化、情報化」ニーズに対応した高付加価値の提供
—モビリティの「つなげる」パートナーとして「つながる」技術で革新—

強み

グローバルなモノづくり力

高度な技術・技能人材

2030年への挑戦

モビリティの変化に対し、
ハーネス等の従来製品の進化に加えて、
エネルギー・情報通信など、
グループの多彩な技術力を融合し、
アーキテクチャの変革を含む、
電動化・高速通信化に挑戦します。

	電動化	従来製品	高速通信化
ハーネス	<ul style="list-style-type: none"> ● 高圧ハーネス、電池内ハーネス ● バスバーモジュール 	<ul style="list-style-type: none"> ● 低圧ハーネス ● アルミハーネス 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高速通信ハーネス ● 光ハーネス
機器電線	<ul style="list-style-type: none"> ● モータ用高圧平角巻線 ● 電極リード線 ● 電池内モジュール配線 	<ul style="list-style-type: none"> ● 電装品用巻線 ● プラグ用電極材 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高周波FPC
コネクタ・端子	<ul style="list-style-type: none"> ● 大電流コネクタ ● 高圧JB 	<ul style="list-style-type: none"> ● コネクタ ● ジャンクションボックス(JB) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高速通信コネクタ
ECU・G/W		<ul style="list-style-type: none"> ● ECU、ゲートウェイ(G/W) 	<ul style="list-style-type: none"> ● ゾーンECU
半導体・デバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● SiCパワーデバイス 		
機能材料	<ul style="list-style-type: none"> ● EV用スチールコード ● 焼結接合部品(E-Axle用) ● オイルポンプロータ(モータ冷却) ● 多孔質金属体 	<ul style="list-style-type: none"> ● スチールコード ● 焼結接合部品(AT/CVT用) ● オイルポンプロータ(エンジン潤滑) ● ばね線 ● エンジン部品 	<ul style="list-style-type: none"> ● ZnS遠赤外線レンズ
樹脂・ゴム製品、センサ他	<ul style="list-style-type: none"> ● バッテリー冷却ホース ● モータマウント ● バッテリー向け断熱材 ● 架橋フッ素樹脂 	<ul style="list-style-type: none"> ● ホース ● 防振ゴム ● 照射チューブ 	<ul style="list-style-type: none"> ● ステアリングタッチセンサ ● ドライブモニタリングシステム
インフラ連携	<ul style="list-style-type: none"> ● 充電コネクタ/インレット ● 蓄電池 	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通管制システム 	<ul style="list-style-type: none"> ● 拡張ユニット

注力3分野に 貢献する 高機能製品

これまで培ってきた
素材技術をさらに進化させ、
エネルギー・情報通信・モビリティを
取り巻くインフラ・産業の発展を
幅広く支えてまいります。

高精度工具

高精度の加工を実現する製品群で
様々な製造業を支えます

難削材・
高硬度材の
精密加工
(切削工具)



自動車・
半導体などの
高精度加工
(研削砥石)



自動車・
半導体などの
高精度伸線加工
(ダイヤモンド
ダイス)



高強度材

様々な高強度の部材を提供し、社会・
産業を支えます

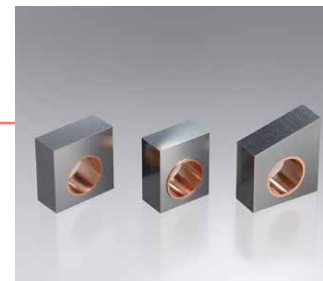
大規模
構造物の補強
(PC鋼材)



複雑かつ
高強度な
構造部品
(焼結製品)



核融合炉の
耐熱部品
(タングステン
モノブロック)



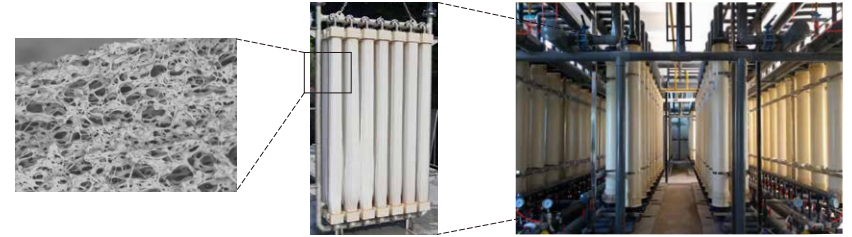
グリーン化への取組み

グリーンな社会の実現に向けて、
製品・サービスによる貢献とともに、
当社の技術を活かした様々な取組みを
展開してまいります。

水資源の循環

環境を汚染しない排水処理、
排水の再利用による循環、
海水淡水化による水資源の
有効活用

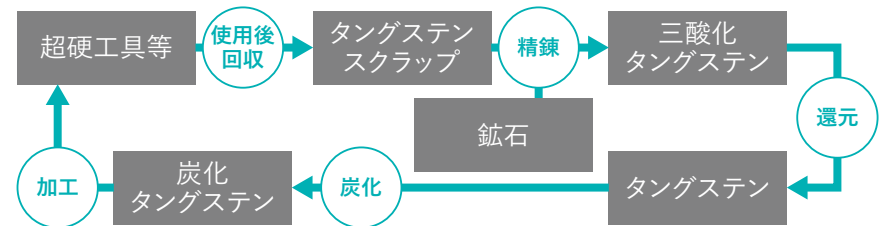
ポアフロン®や新材料を活用したろ過装置



レア金属の有効活用

タングステンをはじめとした限
りある資源であるレア金属の
リサイクルを推進

タングステンのリサイクルフロー



CO₂の削減

「省エネ」に最大限注力し、太陽
光を中心とした「創エネ」への
取組みを徹底した上で、未達
分を「購エネ」で補完

当社のCO₂削減目標 2030年目標はSBTi認定を取得

省エネ ・エネルギー原単位低減

創エネ ・太陽光発電導入
・蓄電池により最大活用

購エネ ・再生可能エネルギー購入

2018年→2030年

Scope 1+2 30%削減

Scope 3 15%削減



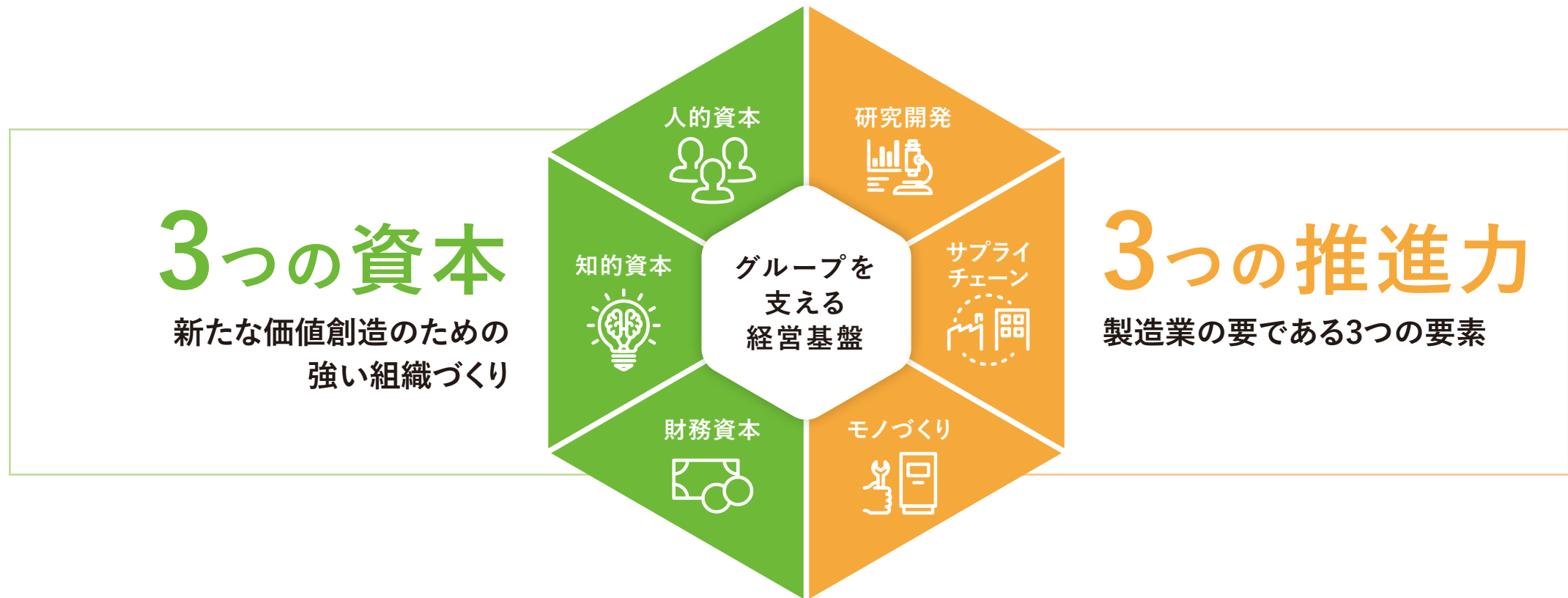
4



基盤と目標

- ビジョン実現への経営基盤
- 3つの資本 | 人的資本・知的資本・財務資本
- 3つの推進力 | 研究開発・サプライチェーン・モノづくり
- 目標

ビジョン実現への経営基盤



不確実・非連続な変革の時代においてビジョンを実現するために、「的確・迅速・柔軟」に変化に対応できる、強い組織づくりを進めます。そのために、3つのグループ共有資本の充実を図るとともに、3つの推進力の強化に取り組み、グループシナジーを最大限発揮してまいります。

3つの資本

変革の時代における
新たな価値創造のために
「人的資本」「知的資本」への
投資を充実させ、
成長と分配の原資として
「財務資本」を充実させることで
強い組織づくりを
進めてまいります。

※人材育成、ダイバーシティ推進、
グローバルリーダー育成等に関する
当社グループの基本方針



人的資本

「グローバルHRMポリシー※」に基づき、あらゆる人材が活躍・成長・自己実現し、社会に貢献できる企業へ

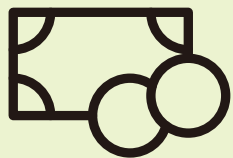
- 「ダイバーシティ&インクルージョン」の推進
- 成長と挑戦に重点を置く風土醸成
- グループグローバルでの総合力発揮



知的資本

コア技術から知的資本を生み出し、グローバルに管理・活用して「長期的な事業競争力を創出」

- 事業競争力につなげる知的財産戦略
- グローバルな知的財産ネットワークの管理
- グローバルなルール制定への貢献



財務資本

成長と分配の原資として最大限に「キャッシュを創出」し、次なる成長への投資とステークホルダーへの還元へ配分

- 体質強化、成長戦略、ROIC経営によりキャッシュを創出
- 効率よく設備投資、研究開発に投資
- ステークホルダーの皆様に成果を還元



財務資本

成長と分配の原資としてキャッシュフローを最大化し適切に配分

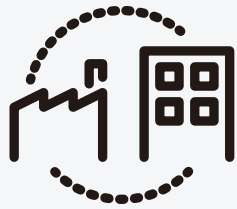




研究開発

「研究活動の活性化」と成果創出の「スピードアップ」を推進

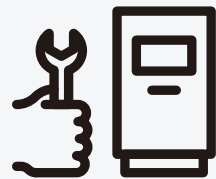
- 社会課題からのバックキャスティング
- プロセスの高度化・効率化
- オープンイノベーションや社外との連携強化



サプライチェーン

「変化に強い安定供給体制」により「BCP強化」を推進

- 公正・公平な取引、環境・人権保護、BCPに配慮した調達
- 市場ニーズに対するソリューション提案型の営業推進
- 最適地生産とグローバル連携による供給体制
- 拠点間分業・輸送手段の最適化



モノづくり

変化に対応し続ける「強い工場」づくりを推進

- 地球環境への貢献：省エネ・創エネ・購エネ推進とエコ活動
- 盤石な生産基盤：人・モノ・設備の完全無災害
- 強い現場づくり：自律・継続的な「維持と改善」
- 進化する生産システム：垂直立ち上げ、リードタイムとコストの同時改善

3つの 推進力

変化に強い組織づくりのため

「S・E・Q・C・D・D※」を

さらに深化させ、

特に製造業の要である

「研究開発」

「サプライチェーン」

「モノづくり」の

3つの推進力を

強化してまいります。

※(S)Safety／(E)Environment／
(Q)Quality／(C)Cost／
(D)Delivery／(D)Development

研究開発

多様な技術創出の「要」となる研究開発の活性化・スピードアップ

Needs-Driven

未来社会ニーズ駆動

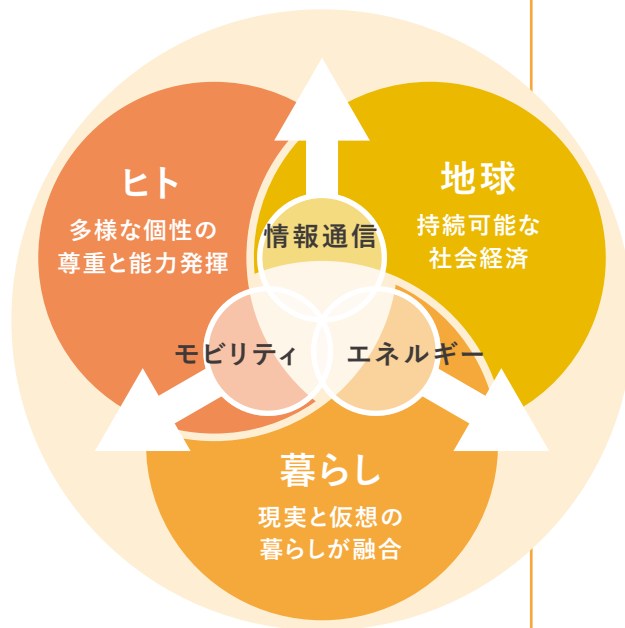
2050年の社会の在り方や社会課題からのバックキャストに基づくテーマを探索

地球

- 水素社会インフラ
- CO₂分離回収
- 超電導応用
- 材料循環利用
- 熱の3R
- 金属代替新材料 等

ヒト・暮らし

- バーチャル空間利用
- 量子ネットワーク
- 次世代移動媒体
- 複合現実
- 宇宙通信・発送電網
- 人間能力拡張 等



Speedy

研究開発プロセスの加速

マテリアルズ・インフォマティクス(MI)、プロセス・インフォマティクス(PI)等の積極導入により、強みとする素材・加工技術の開発加速、自動化・遠隔化などの効率化を推進

International

海外との連携強化

- グローバルに展開する当社グループ内の技術・ノウハウ・アイデア等の連携促進
- 海外企業や学術機関等との連携推進など、ダイナミックな研究開発活動への挑戦

目標

中長期的な 企業価値向上へ

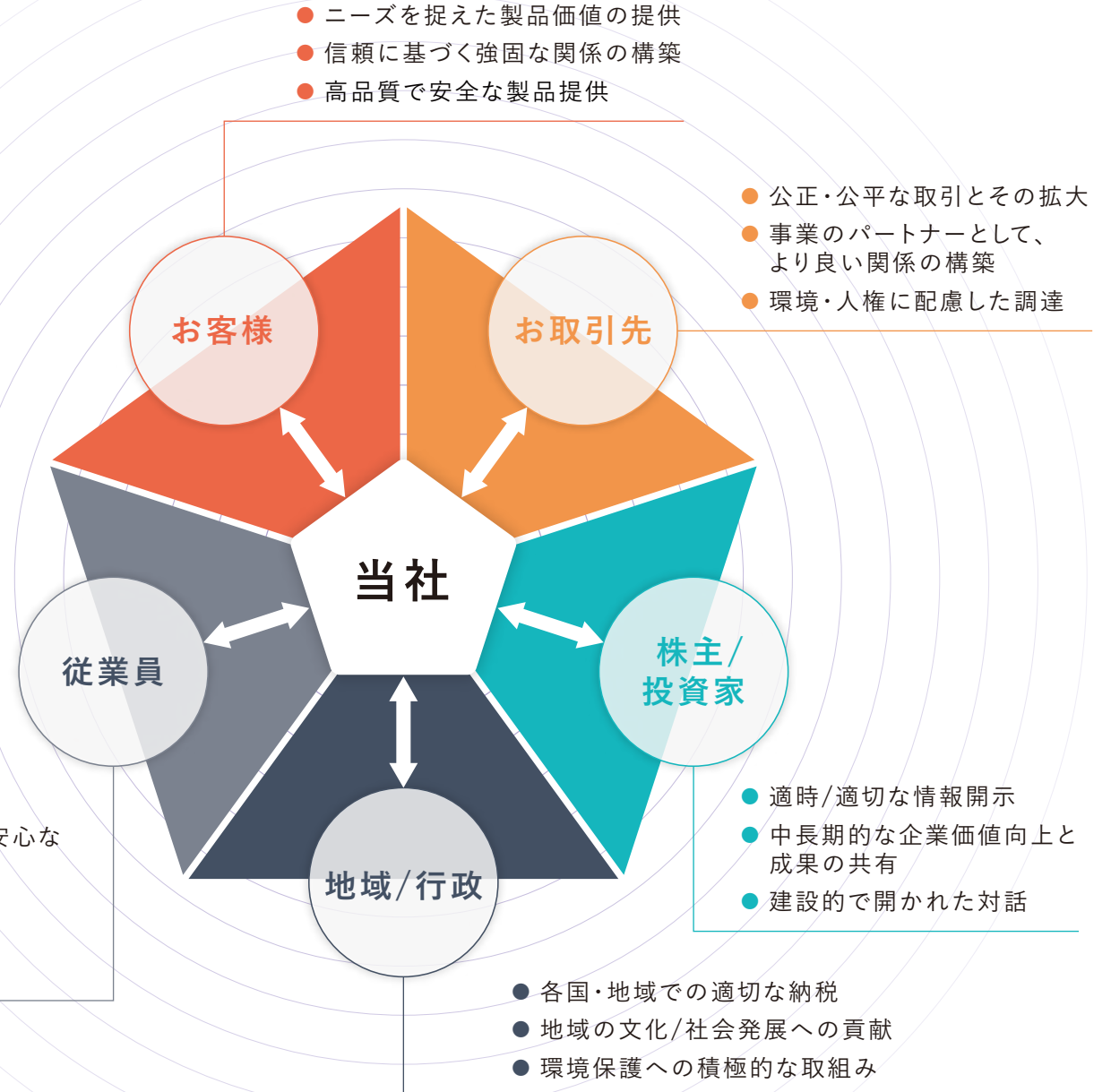
環境、人材、コンプライアンスを重視する企業風土のもとで成長性と効率性を同時に高め、グロリアスでエクセレントな企業集団を目指してまいります。

Glorious		
非財務	E	地球環境 CO ₂ 排出量削減 2030年 [Scope 1+2]30% [Scope 3]15%(18年度比) 2050年 [Scope 1+2]カーボンニュートラル などの様々な取組み
	S	ダイバーシティ・インクルージョン 多様な視点・経験・技術の融合により、 新たな価値を創造
		エンゲージメント 企業価値創造への共感と貢献への実感
	G	コンプライアンス 法令・企業倫理の遵守を サプライチェーン含めグローバルに徹底

Excellent		
財務	成長	連結売上高5兆円以上 エネルギー・情報通信・モビリティの注力3分野で1兆円以上の拡大
	効率	税引前ROIC 10%以上 (高付加価値化・収益構造改善)

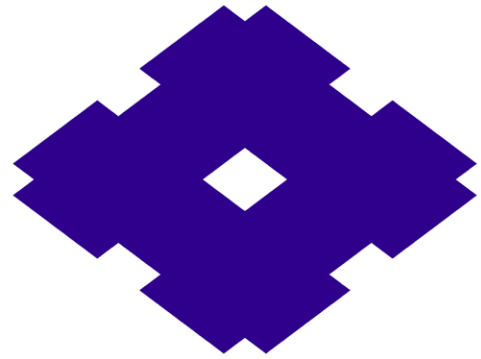
ステークホルダーの 皆様とともに

私たち住友電工グループは「実行する集団」として、「グリーンな地球と安心・快適な暮らし」の実現に向けて取り組み、サステナブルな社会を目指してまいります。そして、その価値観と成果をステークホルダーの皆様と共有してまいります。



**「グリーンな地球と安心・快適な暮らし」づくりに
これからも私たちは技術で挑戦し続けます**





住友電工

Connect with Innovation

<https://sumitomoelectric.com/jp/>